

2019 年度国際交流事業「神奈川大学共同研究奨励助成金
“ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究” 成果報告会」

国際シンポジウム「儀礼と神話」 &

2019 インターナショナルウィーク
インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス
—少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承—
発表要旨集

前言

今回神奈川県国際交流事業に採択を受け、神奈川県共同研究奨励助成を得て遂行した「ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究」（2016年度～2018年度）の成果報告会を実施する。シンポジウムのテーマは「儀礼と神話」である。

まず「ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究」の研究目標を以下に示す。

1. ヤオ族の豊富な民族知識を内包し、儀礼知識の体系ともいえる七言句で構成される経文の解読を進める一方読誦歌唱法に着目し、中国・タイ・ベトナムの儀礼実践における読誦法の地域間比較を行なうことで、その不易と変差を解明することを目的とする。
2. 民族文化資源が利用され続けるには、漢字の識字能力及び読誦能力を次世代に引継がせるシステムの構築が緊急の課題である。本研究はミエン・ヤオ族の民族文化資源である漢字テキストの活用の継承に資するため教材の作成にも取り組む。
3. 儀礼に関連する神画、法具、法衣、楽器等の道具や祭壇に飾られる神画、切り紙細工、供物等はもちろんのこと、衣・食・住を初めとする生活文化全体を解明する。
4. ヤオの文化資源の重要性を次世代のヤオ族、ヤオの移住先の国の人々さらには世界の人々に認知を広げるために文化資源の実態を把握する研究活動だけでなく、ヤオ族文化を紹介する展示等を行う。
5. 中国・タイ・ベトナムをフィールドとし、道教儀礼、宗教史、美術、古代歌謡、親族、社会組織、教育、音楽、言語といった多分野からの地域グループ間の地域分析を進める。

実施した調査の研究の経過を以下に示す。

1. 中国湖南省藍山県（2017年1月）、ベトナムラオカイ省（2016年9月・2017年2月）において祭司となる通過儀礼の還家願儀礼、七灯儀礼、及び等を調査し、儀礼実践における漢字テキストの読誦詠唱の実態を記録した。
2. ベトナムラオカイ省キーコンホで実施された最高位の祭司となる通過儀礼度戒儀礼（トウサイ）の調査を2018年1月2日～11日に行った。儀礼の実践の内容の把握及びテキストの使用及び文書及び法具について詳細に実態を記録した。
3. タイ ナーン県サイトン村で実施された祭司となる最初の通過儀礼掛灯儀礼（クワタン）調査を2018年11月7日～11月11日に行った。ベトナム サパ県で実施された最高位の祭司となる通過儀礼度戒儀礼（トウサイ）及び歌堂儀礼（ゾウダーン）の調査を2019年1月8日～31日に行った。儀礼の実践の内容の把握及びテキストの使用及び文書及び法具について詳細に実態を記録した。

4. 儀礼の実態把握と漢字テキスト及び文書の記録を含むその全容の記録を複数回実施でき、大変貴重な資料を得たといえる。これによりベトナムの姓の異なるグループ間での比較や中国藍山県で実施された度戒儀礼との儀礼の実践及び漢字テキスト及び文書及び神画を初めとする法具等の面での比較分析が可能となった。すでにヤオ族の儀礼の研究を大きく進める新たな知見を次々と発見できた。
5. 漢字文書のうちいわゆる『盤王大歌』の異本の収集に努め、ベトナムのソンラー省、タンホア省、ホアビン省のヤオ族の支系グループであるザオティエン・ザオクワンチェット、ザオドーの所蔵する複数本の撮影及び詠唱法の記録を行った。
6. タイの歌堂儀礼（ゾウダーン）で使用された漢字テキスト、さらにベトナムの歌堂儀礼（ゾウダーン）で使用された漢字テキストの撮影及び詠唱法の記録を行った。
7. 漢字テキストについては中国・ベトナム・タイの異本の翻刻作業を進め、さらに複数の異本を比較検討を加え、プロトタイプのリ構成とバリエーションの確定作業を進めた。同時に漢字テキストの読誦詠唱法を記録に残し、教材化するための作業を進めた。
8. 漢字テキストの読誦詠唱法を記録に残し、教材化するために、経文の国際音声字母表記及び詠唱の楽譜表記を目指しているが、実現に向けベトナムのヤオ族の言語についての基礎的調査を実施した。またすでに収録済みの詠唱について楽譜表記準備を進めた。
9. 儀礼の実践におけるパフォーマンスについて舞踊譜等を作成し、分析を進めた。
10. 儀礼で使用される神画については、中国（湖南省、広西省）、ベトナム（ラオカイ省、ソンラー省、タンホア省、ホアビン省）、タイの祭司の所蔵神画資料のほか、南山大学所蔵、日本山下氏所蔵、台湾南方俗民物質文化資料館所蔵の神画資料に加えベトナム・タイでの儀礼で実際に使用されていた神画及び台湾の玄武堂所蔵のヤオ族神画資料を記録できたため広域比較をさらに進めた。
11. ヤオ族の文化資源に対する認知を広げるため、2017年11月16日～18日タイチュラーロンコーン大で「越境した民族（ミエン・ヤオ）の文化資源の継承支援—儀礼文献と神画展開催—」を開催し、大学生一般人含め367人の来場を得、特にミエン・ヤオ族の方が来場することで、自文化の価値を再認識することに繋がった。中国においてもヤオ族の文化資源に対する認知を広げるため、2018年9月17日～19日上海復旦大学で「瑶族文化展—礼儀文献和神画展—」を開催し、大学生一般人含め300人の来場を得、アンケートに260人あまりの回答を得、ミエン・ヤオ族の文化への関心を高めることに繋がったと自負する。
12. 2017年8月に開館した中国藍山県に瑶族文化博物館内にヤオ族文化研究所の活動を紹介するコーナーが設けられ、これに協力し資料を提供した。2017年7月～9月横浜ユーラシア文化館2017年度企画展「日本・タイ修好130周年記念—

タイ・山の民を訪ねて 1969～1974—」ではヤオ族文化研究所の活動を紹介するコーナーが設けられ、これに対しても資料を提供し、解説を行った。

13. 復旦大学、広西民族大学、台湾政治大学等の招聘を受けメンバーが講演を行い認知活動を進めた。
14. ヤオ族文化研究会を 20 回開催し、研究発表調査報告、作業の進捗状況の報告等を行った。
15. 『瑶族文化研究所通訊』第 6 号を刊行したほか <https://youtu.be/njCKrJEvoAU> https://youtu.be/_5HeUfoFHA4 を通じて動画資料の公開を進めた。成果の報告として中国・タイ・ベトナムに伝承される『盤王大歌』の影印と翻刻を行い、『神奈川大学共同研究奨励助成金「ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究」成果報告書 中国本』、『同 ベトナム本』、『同 タイ本』を刊行した。

明らかになったことの一部を以下に示す。

今回のシンポジウムのテーマ「儀礼と神話」にかかわる研究成果として重要なのは飄遙（遊）過海神話である。異なる地域に居住するミエン・ヤオ族において等しく伝承されている種々な神話は韻文でテキストに記述され、曲節をともなって歌唱される。中でも飄遙（遊）過海神話は、儀礼（歌堂儀礼・度戒儀礼・掛灯儀礼・還家願儀礼・婚姻儀礼）において歌唱され、その祭壇に飄遙過海が供物で表現され、飄遙過海は画像に描かれ、神像が作られ祭場に飾られ、さらに舞踊によっても表現される等儀礼を行う原義として儀礼と密接な関係をもちつつ種々な媒体を通して伝承されていることが分かった。

刊行した報告書について

ミエン・ヤオ族にとって民族文化資源である漢字テキストの活用能力の継承に資する実践として、儀礼執行に欠かせない代表的なテキストの『盤王大歌』を選び、影印を示し、翻刻を行いさらに祭司による詠唱録音資料を付すことで視聴覚に訴える教材の作成を試行した。『盤王大歌』の儀礼知識継承のための教材化は、国境を越え長期間移住を繰り返してきたヤオ族が数百年にわたって保持し続けているものの社会の急速な変化の中、継承の危機を迎えている民族文化資源としての漢字テキストの価値と重要性を次世代の若者たちに認識させることになる。さらに識字能力及び読誦能力を獲得させる教習システム構築の重要性を提言することに繋がり、現地（中国・タイ・ベトナム）の知識人や政策担当者、現地住民を巻き込み伝統的価値の発掘・顕彰が論議されるきっかけともなる。ウェブサイト上の国際的なネットワークを通じ、全世界のヤオ族に活用が広がる可能性があり、人類文化資源の活用の観点からも意義深いといえる。

もちろん研究に役立てるために藍山県の『盤王大歌』を底本としタイ及びベトナムの複数の異本を対校させ、比較対照させた。これにより経文の欠失・加増・融合の校訂やプロトタイプとバリエーションの抽出が可能となり、地域と親族集団の異なるテキスト間の来歴や伝承関係を明らかにするための研究材料としての活用を図ることに繋がると考える。

漢字テキスト『大歌書』（通称盤王大歌）は中国湖南省藍山県のミエン・ヤオ族に伝承さ

れている通過儀礼の還家願儀礼において行われる救世主盤王への祭祀の場面（盤王願）で祭司たちにより現在でも読誦詠唱されている。中国本で翻刻した『大歌書』は祭司趙金付氏の所蔵であるが、趙祭司はこの地域の最も優れた祭司であり、これまで趙祭司が祭司を務めた還家願儀礼を含め、最大規模の通過儀礼（度戒儀礼）、葬送儀礼、年中行事の送船儀礼、春節儀礼、その他病治しの架橋儀礼、神画の開光儀礼等の調査を実施してきた。

中国本では趙氏所蔵『大歌書』を基本書としてタイ本とベトナム本の異本との比較対照を行った。これにより異なる地域のミエン・ヤオ族に伝承され、儀礼で詠唱され続けているいわゆる『盤王大歌』の地域を越えた普遍性と異なる地域や親族集団の個性の存在を明確にすることになると考える。

ベトナム本はラオカイ省の趙徳貴氏の所蔵だが、趙氏も非常に優れた祭司であり、調査において多大なご協力を頂いた。タイ本は南山大学人類学博物館所蔵の上智大学西北タイ歴史文化調査団収集テキストを活用させていただいた。ここに資料提供にご協力いただいた祭司及び機関に御礼申し上げたい。

今後の課題および研究計画について

調査により収集した資料の量が膨大なため、分析を進める前段階である整理作業に必要な人材や人件費を確保することが難しく、限られた条件下で作業を進めてきたにもかかわらず、メンバーの努力によりかなりの成果があがったといえる。ヤオ族の儀礼研究を大きく進める新たな知見を次々発見できており本研究の研究方法は今後の少数民族の儀礼研究に影響を与えるものと考えている。今後さらに成果の公表に努めたい。

2019年7月23日

一般社団法人ヤオ族文化研究所 所長

廣田律子

前言

本次所举行的《关于瑶族仪礼文献与诵读歌唱法的综合研究》成果报告会，是通过并获得了神奈川大学国际交流事业·神奈川大学共同研究奖励科研费的资助而实现的。国际研讨会的题目为《仪礼与神话》。

《关于瑶族仪礼文献与诵读歌唱法的综合研究》的研究目标如下：

瑶族的仪礼经文可称为由七言对句构成的仪礼知识体系，它涵盖了丰富的瑶族民族知识。我们在解读经文的同时，也着眼于其诵读歌唱法，通过对中国·泰国·越南的实际仪礼仪式上的诵读法进行同一地区不同群体及地区间的比较，以究明其不变及差异。

为继续利用民族文化资源，构筑起能让下一代继承的汉字识字及诵读能力体系是当前紧要课题。为此，本研究也在努力制作适合于作为勉瑶民族文化资源能够继承下来的汉字教材。

我们要解明的不仅是与仪礼有关的神话、法术道具、法衣、乐器等道具及装饰祭坛的神画、剪纸等工艺品、供奉物品，也包括以衣·食·住为主的全面的生活文化。

为了向下一代的瑶族、瑶族所移居的国家的人们及全世界的人们推广并认知瑶族文化的重要性，我们的研究活动不只是掌握文化资源的实际状况，展示并介绍瑶族文化也是我们的研究范畴。

通过对中国·泰国·越南进行田野调查，我们从道教仪礼、宗教史、美术、古代歌谣、亲族、社会组织、教育、音乐、言语等多领域进行了地域间的异同分析。

以下是我们进行实地调查研究的经过：

1. 在中国湖南省蓝山县（2017年1月）、越南老街省（2016年9月·2017年2月）进行了为成为祭司而举行的通过仪礼的还家愿仪礼、七灯仪礼及歌堂仪礼等调查，并对仪礼仪式上所使用的汉字经典的诵读咏唱的实际情况进行了记录。

于2018年1月2日~11日我们在越南老街省进行了为成为最高祭司而举行的通过仪礼——度戒仪礼的调查。掌握并记录了仪礼的实际内容形式、所使用的经典文书及所使用的法具等详细内容。

于2018年11月7日~11日在泰国南县村进行了为成为祭司所举行的最初的通过仪礼——挂灯仪礼的调查。于2019年1月8日~31日在越南沙坝县进行了为成为最高祭司而举行的通过仪礼——度戒仪礼及歌堂仪礼的调查，掌握并记录了仪礼的实际内容形式、所使用的经典文书及所使用的法具等详细内容。

因得以进行了多次包括仪礼实际的形式内容及所使用的汉字经典及文书等全部内容的记录，可谓获得了非常宝贵的资料，因而实现了关于越南不同姓氏群体之间的比较、与在中国蓝山县举行的度戒仪礼的实际内容形式及所使用的汉字经典、文书、神画、法具等多方面的比较分析。通过比较研究不断获得新的知识，极大地推动了瑶族仪礼的研究。

在对汉字文书其一《盘王大歌》的不同版本的收集方面，我们也做了努力。对越南山萝省、清化省、和平省的瑶族支系群体所藏的多数版本的摄影及咏唱法进行了收集记录。

对在泰国举行的歌堂仪礼（坐堂）中所使用的汉字经典及在越南的歌堂仪礼（坐堂）中所使用的汉字经典的摄影及咏唱法进行了记录。

我们对中国·越南·泰国不同版本汉字经典进行了复制，并且对多数不同版本的汉字经典进行了比较研究，也进行了对其原型的恢复整理和其变化之处的确认工作，同时留下了关于汉字经典咏唱法的记录，进一步推进了汉字经典教材化的进程。

为把汉字经典整理为教材并保留下其诵读咏唱法的记录，以给经文标上国际发音字母及为咏唱的曲调标上乐谱为目标，我们在越南进行了瑶族语言的基础调查，并且进行了为已经收录的咏唱进行乐谱标记的准备工作。

关于仪礼仪式上的表演动作的记录分析的研究也有进展。

关于仪礼中所使用的神画，除了中国（湖南省、广西省）、越南（老街省、山萝省、清化省、和平省）、泰国的祭司们所藏的神画资料之外，还有南山大学、日本·山下氏、台湾南方民俗物质文化资料馆等所藏的神画资料，加上在越南·泰国的仪礼仪式上使用的神画及台湾玄武堂所藏的瑶族神画资料，对此我们都进行了记录，因而也推进了广阔的地域间的比较研究。

为增进对瑶族文化的认知，我们于 2017 年 11 月 16 日~18 日在泰国朱拉隆功大学主办了《对越境民族（勉瑶）文化资源的继承与支援——仪礼文献与神画展——》。观展的大学生与普通人士计 367 人，特别是勉瑶出身的观众，这种展览是他们重新认识本民族的一个契机。同样在中国为了增加对瑶族文化的认知，我们于 2018 年 9 月 17 日~19 日在上海复旦大学举办了《瑶族文化展——仪礼文献与神画展——》。观展的大学生及普通人士计 300 人，其中填写了问卷调查的有 260 多人。我们相信这种展览一定增进了世间对勉瑶文化的关心。

于 2017 年 8 月在中国蓝山县开馆的瑶族文化博物馆里，专设了一个介绍瑶族文化研究所的活动的栏目，研究所为此提供了资料。在 2017 年 7 月~9 月横滨欧亚大陆文化馆主办的《日本·泰国友好 130 周年纪念——造访泰国山地民 1969 ~1974——》也开设了介绍瑶族文化研究所的活动的专栏，为此研究所提供了资料并进行了解说。

承蒙复旦大学、广西民族大学、台湾政治大学等的邀请，本所研究人员赴当地进行了演讲，增进了对于瑶族文化的认知。

瑶族文化研究所自成立以来举办了 20 次研究会，进行了研究发表、调查报告、研究的进展情况的报告等活动。

《瑶族文化研究所通讯》刊行到第 6 号。除此之外通过以下网址 <https://youtu.be/njCKrJEvoAU> https://youtu.be/_5HeUfoFHA4 公开了动画资料。作为研究成果汇报，对中国·泰国·越南所传承的《盘王大歌》进行了影印与复制工作。刊行了《神奈川大学共同研究奖励助成金〈关于瑶族仪礼文献与其诵读歌唱法的综合研究〉成果报告书 中国版》、《同 越南版》、《同 泰国版》。

通过以上研究所阐明的内容一部分开示如下：

作为与此次国际研讨会的主题〈仪礼与神话〉相关的研究成果，我们认为比较重要的是飘

遥（游）过海的神话。在居住于不同地区的勉瑶之间都有各种各样的神话传承，这些神话以韵文的形式被记录下来，和着曲调加以咏唱。其中，飘逸（游）过海的神话在多数仪礼（歌堂仪礼·度戒仪礼·挂灯仪礼·还家愿仪礼·婚姻仪礼）中被咏唱，祭坛上的供品也体现了飘逸过海的神话。飘逸过海被画成神画，雕塑成神像装饰在祭祀场中，并且以舞蹈的形式表现出来。飘逸过海神话作为诸仪礼的基础与仪礼有着紧密的关联，而且通过各种媒体形式被传承下来。

以下是关于我们刊行的报告书：

对于勉瑶来说，能更好地运用与继承作为民族文化资源的汉字经典的方法是仪礼的实施，而仪礼的实施则欠缺不了具有代表性的经典《盘王大歌》。我们选择了《盘王大歌》对其进行了影印与复制工作，并且附录上祭司的咏唱录音资料，尝试制作了集视觉与听觉于一体的教材。在快速发展与变化的社会中，瑶族经过反复不断的长期的越境迁徙，经历了几百年而保存下来的民族文化资源正处于传承的危机之中，为继承《盘王大歌》的仪礼知识而制作的教材，是为了唤起下一代的年轻人，使他们认识到作为民族资源的汉字经典的文化价值和重要性。也提示了为提高下一代的识字能力及诵读能力，重新构建一种训练体制的重要性。激发起当地（中国·泰国·越南）有识之士及政策负责人能够唤起民众就传统的价值之发掘与彰显而进行议论。并通过国际互联网上的网页，使全世界的瑶族都能有效利用，可以说从人类文化资源的有效利用的观点来看也意义匪浅。

当然为有意于研究，我们把蓝山县的《盘王大歌》作为基础版本，与泰国和越南的多数不同版本进行校对、对照比较。由此，不仅校对经文之缺失·增加·融合的部分，也容易构筑原型并抽取变化的部分。我们认为作为解明地域和亲族群体之间不同版本的由来及传承关系的研究资料，也可有效利用。

《大歌书》（通称盘王大歌）是中国湖南省蓝山县所传承下来的汉字经典。至今为止被祭司们在通过仪礼的还家愿仪礼中祭祀救世主盘王时所诵读咏唱。用中国版本复制的《大歌书》由祭司赵金付所藏。赵祭司是其地区最优秀的祭司，至今为止我们所实施的仪礼调查都是由赵祭司所主持。除了还家愿仪礼之外，有最大规模的通过仪礼（度戒仪礼）、葬送仪礼、例行节日活动的送船仪礼、春节仪礼，还有治病的架桥仪礼、神画的开光仪礼等。

我们把赵氏所藏的中国版本的《大歌书》作为基础版本与泰国和越南的不同版本进行了对照比较。由此可推测，由不同地域的勉瑶所传承下来的、在仪礼中被一直咏唱下来的《盘王大歌》不仅具有超越地域的普遍性，也具有不同地域及亲族群体的个别性质。

越南版本由老街省赵德贵氏所藏。赵氏也是一位非常优秀的祭司，对我们的调查给予了极大的协助。关于泰国版本，我们有效地利用了南山大学人类学博物馆所藏的、上智大学西北泰国历史文化调查团所收集的经典。在此向给予协助并提供资料的各位祭司及机关深表谢意。

关于今后的研究课题与研究计划：

由于在调查中所收集的资料数量庞大，在进行分析之前的整理阶段，我们很难确保人材与经费，可以说即使在这种有限的条件下，研究所的人员也不懈努力创出成果。层出不穷的新发现推进了瑶族的仪礼研究，对今后少数民族的研究产生了一定的影响。我们期待着今后能够发表更多的研究成果。

2019年7月23日
一般社団法人瑶族文化研究所 所长
广田律子

目次

前言	1
目次	9
著者一覧	10
国際シンポジウム「儀礼と神話」 発表要旨	
飄遙過海神話を伝えるメディア（要旨）	12
吉野晃	
ミエンの神像画小軸 図像解釈	13
内海涼子	
宗教と性別：ヤオ族の女性の歌い人達と盤瓠の関係	15
陳玫奴	
Martial Divinities in Yao Ritual Texts / 《瑶族仪礼歌谣书中的武神》	17
Lucia Obi	
广西南丹县白裤瑶砍牛祭丧仪式的人类学阐释	18
玉时阶	
文化涵化与音乐认同 ——老挝优勉瑶婚俗音乐文化研究	21
赵书峰	
美国北加州瑶人婚礼的考察与思考	23
何红一	
生命礼仪中的酒及其文化表征 ——基于广西公母山瑶族度戒仪式的考察	26
陈锦均	
度戒：瑶族男子成年礼的宗教仪式	28
胡牧君	
「招兵」儀礼に見られる陰兵を招く方法について —中国湖南省藍山縣の過山ヤオ族を中心に—	32
浅野春二	
中国湖南省藍山県ヤオ族の上光儀礼に対する儀礼文献学からの考察	34
丸山宏	
従国内、海外視野看越南瑶族漢喃書籍	35
Nguyễn Tô Lan（阮蘇蘭）	
越南瑶族煉度研究初探——以文献考察为中心	37
郭正宜	
《越南瑶族民間古籍・韓朋古》之故事特色與價值	39
鄭美惠	

インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス

—少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承— 発表要旨

图像与阴兵：基于广西恭城瑶族自治县勉瑶仪式神画开光仪式的考察.....	42
谭静	
ヤオ族の儀礼における身体技法を考える～中国湖南省の長鼓舞を中心に～.....	44
小塩さとみ	
歌謡に見える飄遙過海神話.....	46
廣田律子	

著者一覧

氏名 (敬称略)	所属	職階
吉野 晃	東京学芸大学 教育学部	教授
内海 涼子	大阪成蹊大学 芸術学部	教授
陳 玫奴	ハンブルグ大学アジアアフリカ研究所	リサーチフェロー
Lucia Obi	International Youth Library	館員
玉 時階	中国広西民族大学 瑤学研究中心	教授
趙 書峰	中国湖南師範大学 音楽学院	教授
何 紅一	中国中南民族大学 文学与新聞伝播学院	元教授、ユネスコ民間工芸家
陳 錦均	中国広西民族大学 民族学与社会学学院	特別研究員
胡 牧君	中国広西民族大学 図書館	研究員
浅野 春二	國學院大學 文学部	教授
丸山 宏	筑波大学 人文社会系	教授
Nguyễn Tô Lan (阮 蘇蘭)	ベトナム社会科学翰林院、漢喃研究院	研究員
郭 正宜	台湾高苑科技大学 資訊伝播系	副教授
鄭 美恵	台湾台中科技大学 通識教育中心	助理教授
譚 静	中国広西民族大学 民族学与社会学学院	講師
小塩 さとみ	宮城教育大学 教育学部	教授
廣田 律子	神奈川大学 経営学部	教授

※掲載順

2019 年度国際交流事業「神奈川大学共同研究奨励助成金

“ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究” 成果報告会」

国際シンポジウム「儀礼と神話」

発表要旨

飄遙過海神話を伝えるメディア(要旨)

吉野 晃

タイのミエンの許には〈飄遙過海〉*p^hiu jiu ciə k^hoi*という決まり文句で伝承される「渡海神話」が伝わる。これは祖先の移住神話である。〈飄遙過海〉の粗筋はおおよそ以下のようなものである。①かつてミエンは南京八万山にいた。②寅卯の年、大干魃にあった。③ミエンは南京を脱出し、海を渡った。④航海中に船が進まず、風で難破しそうになった。⑤船中で願掛けをして神に祈った。⑥神々によって救護され上陸した。⑦広東道韶州府樂昌県に到った。⑧謝恩・願ほどきの儀礼を行った。⑨その後、ミエンは分散して各地へ移動していった。これがミエンの祖先に共通した歴史的出来事であると表象され、〈飄遙過海〉という定形句に対象化されている。

このストーリーは一件の個別テキストによるものではなく、多様なメディアによって伝承されている。この点がスタンダードなテキストがある道教・法教系の経文との違いである。〈飄遙過海〉は、儀礼で使われる経文でも口承伝承でも伝わっている。〈飄遙過海〉のエピソードは以下のようなものに対象化されている。(1)〈盤王〉祭祀系の経文:〈盤王〉祭祀儀礼は道教・法教系の儀礼とは異なる系統である。(2)〈歌堂〉儀礼:この儀礼は〈盤王〉への謝恩儀礼である。(3)「親家礼書」:婚礼の時に祭司が読み上げる儀礼文書である。(4)歌:歌は多種あるが、故事を唱った歌に多く表れる。(5)個人の書き付け。(6)〈廟〉における〈盤王〉像:タイでは、〈盤王〉を祀る〈廟〉は1990年以降建設されるようになった。このように、〈飄遙過海〉は多様なメディアによって人々に伝えられ、観念的に対象化されているのである。

Abstract: The Media Transmitting “*Phiu Yiu Cie Khoi*” Myth.

Dr. Akira YOSHINO

In the Mien of Thailand, the Cross the Sea myth is transmitted. It is called *Phiu Yiu Cie Khoi* (飄遙過海) in Mien language and is a myth of migration of their ancestors. The digested story of the myth is as follows; 1. The Mien ancestors lived in Ba Wan Shan of Nanjing(南京八萬山) in the past. 2. In the years of *Yien* and *Mau*(寅卯二年), a great drouthgt happened. 3. The Mien escaped from Nanjing and cross the sea. 4. In their way, their ship stopped and they afraided to be shipwrecked. 5. In the ship, they prayed to gods that the gods would save them. 6. The gods saved them and their ship reached a shore. 7. They arrived at *Lo tshyang gwen, Tshyau tsyau fou*, Guangdong(廣東道韶州府樂昌縣). 8. They conducted a thanks-giving ritual for the gods. (9) Then, they dispersed and headed for several destinations. This myth is represented as the historical incident of their ancestors and is objectivised into a stock phrase “*Phiu Yiu Cie Khoi*.”

This story is not written in an independent text but in many kinds of media. These are different from the fixed texts of Daoism(道教) or Faism(法教). “*Phiu Yiu Cie Khoi*” is objectivised in the media as follows; (1) The texts of *Pienhung* (盤王) worship rituals: It is another line of worship other than Daoism and Faism. (2) *Dzoudaang* (歌堂) ritual: This is a thanks-giving ritual for *Pienhung*. (3) “*Tsing caa lei sou*” (「親家礼書」): A priest chants this text in a wedding ritual. (4) Songs: There are many kinds of song. “*Phiu Yiu Cie Khoi*” is sung in the songs of legend. (5) Indivial’s memorandum. (6) The statue of *Pienhung* in a shrine: The shrines of *Pienhung* were built in Thailand since 1990. Therefore, “*Phiu Yiu Cie Khoi*” is transmitted to Mien people and is ideally objectivised.

「ミエンの神像画小軸 図像解釈」

内海涼子

ベトナム北部やラオス、タイでは、ミエンの神像画のフルセットには、長さが 120cm 前後の大軸の絵が 17~18 枚のほかに、長さが 40cm 前後の小軸の絵が 4~6 枚ある。小軸のうち 2 枚には四府功曹が二人ずつ表されている。他に、供物の準備とそれを監督する女性像を表した「監齋」と、ミエンの飄遙過海神話において船が航行不能となった際に盤王が五旗兵馬を遣わして助けてくれた「過海」場面を表した図がある。以上の 4 枚は、度戒儀礼において高位祭司が持参し、それぞれ定められた小祭壇に掛ける。さらに、資料は少ないが、上部に高位貴族の装いの男性、その下にニワトリと犬、その下に数名の男女が描かれ、ミエンの龍犬神話と氏族の起源に関連する「始祖」を表したと推測できる絵、ミエンの神々を 1 枚に表した「総壇」の縮小版がある。

ミエンの「監齋」図は菜食潔齋を遵守させるための絵だと解釈されているが、ベトナムやタイの「監齋」には、ブタを供犠する場面が描かれており、矛盾している。2018 年と 2019 年にラオカイ省で行われたミエンの「度戒」では小軸画「過海」と「監齋」は、祭場に背中合わせに對で掛けられた。このことから、「監齋」は飄遙過海神話において盤王に助けを請うたときに約束した謝恩儀礼「歌堂」の供物準備とその監督者を表した絵であると考えられる。「歌堂」においてはブタの供犠は必須である。過海において盤王が助けてくれた恩を忘れず、謝恩儀礼「歌堂」を代々で行うという約束は、文書や口承などで伝承されており、「過海」と「監齋」の二枚の小軸画もそれを伝えるメディアのひとつであるといえる。

また、タイで 2018 年におこなわれた掛三燈儀礼では、祭場の中央に設置された神壇の上方に小軸画「始祖」と推測できる小軸画を掛け、左方に「過海」を右方に「監齋」が掛けられた。これら 3 つの小軸画により、評皇券牒過山梯や盤王大歌などに記された、ミエンの祖先神話の中核部分が視覚化されていると解釈することも可能である。

他方、中国の湖南省などで使用されていた神像画セットでは、「監齋」は大軸画である。そこには、ブタを供犠する場面は描かれていおらず、剣を振り上げた憤怒相の男性神が描かれ、精進潔齋を犯したものに罰が強調されている。湖南省などでは、「監齋」図と菜食潔齋との関連が重視された結果、「過海」図との関連性が薄れ、地域的に変容したと推測できる。

The iconography of smaller scrolls of Mien ceremonial paintings. UTSUMI Ryoko

Among the Mien people in Sapa prefecture and Bat Xat prefecture in Lao Cai province, Vietnam, a full set of ceremonial paintings consists of 17 to 18 bigger hanging scrolls of about 120 cm long, 4 to 6 smaller hanging scrolls of about 40cm long, and a horizontal long scroll. On 2 scrolls, 2 celestial messengers each are depicted, usually for the Sky and the Underworld, and for the Earth and the Water (四府功曹). Another smaller scroll is depicting a scene of preparation of offerings supervised by a woman sitting behind a table (監齋). One more smaller scroll is depicting a boat with a few passengers on the waves and a god or celestial army figure above them. This is apparently telling the Mien historical mythology of Crossing the Sea (飄遙過海) and the rescue by the God's soldiers (五旗兵馬). These 4 smaller scrolls are rather popular among higher priests. Another one is rare example in which a king-like man or god on the top and some other men and women arranged in 2 or 3 layers below. In some example a chicken and a dog are depicted below the king-like figure. This image is probably related to the mythical story of Mien origin written and illustrated in the Mien's famous "King Ping's Charter" (評皇券牒). The other one is depicting full members of Mien pantheon. This is smaller and abbreviated version of the bigger one (総壇) in which 72 deities and celestial beings are depicted.

In tow *tousai* (度戒) ceremony held in 2018 and 2019, in which priests rised to highest rank, smaller scrolls of the Preparation of Offering and of the Crossing the Sea were hung back to back on the both sides of a wall beside the main altar at the beginning of vegetarian fasting. But, on the Preparatin of Offering, people are sacrificing a pig. This is contradicting the concept of fasting. Seeing the setting of these 2 scrolls as one pair in *tousai*, I suggest the Preparation of Offering is depicting not a preparation for usual ceremony, but the thanks giving ceremony "Zho Dang (歌堂)", which Mien people promised to do afterwards, when they asked help to the gods in thier difficult Sea Voyage.

Further, in a *kwatang* ceremony held in Thailand in 2018, a smaller scroll with a "King?" and "a chicken" and a dog is hung above the main altar. To the left of it "Crossing the Sea" was hung, and to the right "Preparation of Offerings". This setting of 3 smaller scrolls might be visualization of one of the core identity of Mien, the myth of founder ancestors and the origine of Mien clans, and the legend of crossing the sea written in the Mien's Charter and other texts and songs.

In Henan province, China, the preparation of offering is depicted on a bigger scroll. There is no pig slaughtering scene, and the supervising woman is replaced by a man god in punishing mode. Here, the punishment for the violation of fasting regulation is appearant. This could be the local change as a result of emphasizing the relation of the scroll of Preparation of Offering to the vegetalian fasting, and obscurring the relation to the Crossing the Sea legend.

宗教と性別 : ヤオ族の女性の歌い人達と盤瓠の関係

Dr. Chen Meiwen 陳玫奴博士

ドイツ

ハンブルグ大学アジアアフリカ研究所

リサーチフェロー

mwc511@gmail.com

この研究では、ヤオ（瑤）族の伝統儀式における女性の歌の役割を探る。

ヤオ族は現在中国に存在する56の少数民族のうちの一族であり、彼らの人口の大半は中国南部の山岳地帯に居住している。

道教色の非常に濃いヤオ族の度戒儀式、又、漢文で記述されている儀式の経典は、度々、ヤオ族の「漢化」に関する学究の主張を支える参考資料となっている。

彼らの伝統儀式、特にヤオ族の先祖の神である盤瓠に纏わる儀式の解析においても、女性の歌の重要性については見落とされている。

文字化されている伝統と宗教に携わる男性達に狭く焦点を当てているヤオ族の「漢化」の一般的な通念に、この論文は挑むものである。

第一に、この論文ではヤオ研究における「ヤオの道教」の推論的な歴史を追跡する。

第二に、儀式における歌の重要性と特に女性と歌の関連を探る。

第三に、神話や儀式に現れる「歌母」（美声で名高く歌のレパートリーの多い女性）の役割のシャーマニズム的な特性を考察する。

結論として、この論文では、長期に渡る男性優位な儀式伝統における女性達の声を探求する。

キーワード：ヤオ族の道教、漢化、盤瓠、歌

Religion and Gender: Yao Female Singers and Their Relation with Panhu

Dr. Chen Meiwen

Research Fellow

Asia-Africa Institute, University of Hamburg

Germany

mwc511@gmail.com

This study explores the roles that female singing has played in Yao 瑤 traditional rituals. The Yao are one of the 56 nationalities in today's China, with the majority of their population residing in mountainous areas of South China. Yao's highly Daoist-laden ordination ceremonies and ritual manuscripts in Chinese have often been singled out to support scholarly claims about Yao "sinification". Such analyses overlook the importance of female singing in Yao ritual traditions, especially as shown in the rituals regarding their progenitor deity, Panhu 盤瓠. The paper challenges conventional wisdom about Yao "sinification" that narrowly focuses on written tradition and male religious practitioners. First, the paper traces a discursive history of "Yao Daoism" in Yao studies. Second, it explores the ritual significance of singing and its special references to womanhood. Third, it examines shamanistic characteristics of the role of the "mother of singing" (gemu 歌母; a woman renowned for her good voice and wide repertoire of songs) as expressed in myths and rituals. In conclusion, the paper seeks to find the voices of women in a ritual tradition of long-term male domination.

Keywords: Yao Daoism, Sinification, Panhu, Singing

Martial Divinities in Yao Ritual Texts / 《瑶族仪礼歌谣书中的武神》

Lucia Obi

Most of the martial deities figuring in Daoist ritual have their roots in Tianxin, Shenxiao, and Tantrist traditions of the Song-Dynasty. Which of these can be found in Yao liturgical texts and paintings? Which information concerning their iconography, hagiographies and role in the rituals can be gathered? What information can be gained about the migration of texts, traditions or Yao groups?

Among 优勉 儀礼神画 the 三將軍 (三元, 上, 中, 下元) are depicted together on one single scroll, these are quite frequent in Hunan, but rarely found in other areas. In 优勉 manuscripts the 三元 are listed almost entirely in talismans, in combination with 步罡 diagrams and requests to destroy malevolent spirits. Their function is attested already in 天心 texts.

Among 荆門師公 and 道公 there is one separate scroll for each of the 三元, constituting the main set of paintings of the priests. According to 荆門師公 texts, the 三元 are the 祖師 of 梅山教. The shigong seal's inscription 三元考召印 is another link to 天心 texts describing 考召 rituals to hunt down demons. In 荆門道公 texts the 三元 are only listed in sequences of 神目科 and otherwise not made a topic.

The 四大元帥, 關, 趙, 馬, 溫 of the “orthodox” 正一派, figuring prominently in rituals all over South China, are rarely mentioned in 尤綿 texts, however, they are represented in most of the sets of their scrolls: In Hunan they are 趙元帥, 王靈官 and 馬元帥, while 王靈官 is replaced in Guangxi und Southeast Asia by 鄧元帥. On 荆門師公 and 道公 scrolls particularly 趙, 馬, 鄧 and 關元帥 are often depicted on a set of two scrolls, mostly in pairs or in groups of three. 荆門師公 texts rarely ever mention the 四元帥, while in 道教科儀 they are regularly invited to the rituals.

海翻 and 太尉 take over functions of the 元帥 as protectors of the inner altar in 尤綿 Rituals. The iconography and hagiography of 海翻 merges features of divinities of various Southern ritual traditions, 太尉 functions as a complementary figure. 儀礼神画 depicting 海翻 and 太尉 are found in all 优勉 groups and are part of a basic set of 儀礼神画. They never occur in 荆門神画 and are never mentioned in their texts.

In all texts of all Yao groups and traditions, martial figures assigned to the thunder department 雷部 and wuleifa 五雷法 are mentioned. Some of the yuanshuai show iconographic traits of thunder deities of the 神霄 Tradition or tantric influences.

广西南丹县白裤瑶砍牛祭丧仪式的人类学阐释

中国广西民族大学 玉时阶 中国南宁师范大学 玉璐

(论文摘要)

丧葬仪式是人类人生礼仪重要的组成部分，集中体现了一个民族的宗教信仰、伦理道德及族群认同等文化特征，具有增强民族凝聚力、强化道德信仰和对社会记忆的历史建构等作用。

白裤瑶是瑶族中的一个支系，主要聚居在中国广西南丹县的里湖瑶族乡、八圩瑶族乡及贵州荔波县的瑶山乡、捞村乡，分布在南丹县的白裤瑶有 4 万余人，在荔波县有 3000 余人，因其男子穿白色土布裤而被其他民族称为“白裤瑶”。

砍牛祭丧是白裤瑶丧葬仪式的重要内容之一。在白裤瑶地区，除刀伤、蛇伤、虎咬与孕妇难产等“凶死者”外，凡 5 岁以上的死者，都可举行“砍牛祭丧”。

砍牛祭丧必须打铜鼓。击铜鼓以伴歌舞，是白裤瑶砍牛祭丧宗教祭祀活动中的一个重要组成部分。20 世纪 50 年代前，白裤瑶只有举办丧事才能敲击铜鼓。丧事敲击铜鼓时设有鼓场。鼓架竖好后，丧家的油锅兄弟就拿出铜鼓来敲打，以超度死者灵魂登天。砍牛场一般设在村寨旁的田中或较平坦的地方，并埋上木桩，用绳索把牛鼻子穿好栓在木桩上。砍多少头牛，就埋多少根木桩。然后，死者的直系亲属每人左手拿一把谷穗，右手拿一根小竹子作拐棍，垂头躬腰，哭着慢慢走入砍牛场，他们先走到舅爷面前，每人对舅爷作半跪式致谢礼，然后走近牛身旁，把手上的谷穗喂给牛吃，并向牛下半跪礼哭泣。待魔公念完祭祖歌后，丧家亲属方可动手砍牛。砍牛要朝牛颈脖子砍，但不能将牛颈脖砍断。直到把整个牛颈砍得伤痕累累，才用绳索把牛绊倒，用短刀割牛颈的动脉取血。牛肉除了用来招待全体参加祭丧活动的人吃一餐外，还必须留一部分给舅舅带回去分给其油锅成员享受。砍牛祭丧结束后，第二天方可将死者抬去下葬。“砍牛祭丧”是白裤瑶的一种重要的社会活动。这一天附近村寨几十里内的人们都赶来观看，往往形成几百人到上千人的一次聚会，这一天，也是青年男女进行社交的机会。

白裤瑶的砍牛祭丧仪式不仅是其社会生活中的一次神圣的宗教信仰仪式，同时也是白裤瑶人对其先民早期社会生活记忆的一种特殊展示，表述了白裤瑶思乡寻根与灵魂归宗的观念及其对舅权的尊重。在整个砍牛祭丧仪式过程中，人与超自然力量、人与人之间的情感、祖先与民族的集体记忆等都被唤起，使每个参加砍牛祭丧仪式的白裤瑶社会成员的角色地位发生了转变，彼此之间关系的互动并重新获得调整，从而推动白裤瑶集体记忆的回归与强化，在一定程度上增强了民族的认同感。

The Anthropological Interpretation of Sacrifice Cattle Funeral of White-trousers Yao in Nandan County of Guangxi

Abstract

The Funeral is the important part of life rituals in human social life. It embodies the religious belief, morals and ethnic identity as well as increases the enhancement of national cohesion, moral belief and the historical structure of social memory.

The White-trousers Yao is one of Yao nationality. They reside in Li Hu Township and Ba Xu Township in Nandan County of Guangxi, and in Yao Shan Township, Lao Cun Township in Libo County of Guizhou. There are forty thousand people in Nandan County, three thousand in Libo County. They are called “White-trousers Yao” by other people, for dressing the white-trousers made of homemade white cloth.

The sacrifice cattle funeral is the important part of the White-trousers Yao funeral. In their resident, the funeral for the dead above five years old could be held, except the dead were hurt by knife, snake, tiger, dystocia.

The bronze drum must be played in the sacrifice cattle funeral. Playing the bronze drum, dancing and singing are the important parts of this ritual. Before 1950s, the White-trousers Yao played the bronze drum only when the funeral was held. In the funeral, they set up the drum field. The Oil Pot brothers of funeral home, belonging the same Oil Pot organization, take out the drums and play them when the drum frame is built up for releasing the soul of the dead to heaven. The sacrifice cattle place is generally set on the farmland or flat field around this village. The bull is bound around the woodpile with a cord through the bull nose. How much the cattle will be sacrificed, there are how much woodpiles. Then the immediate family members hold a bundle of rice head by the left hand and take a bamboo walking stick by the right one. As well, they with the posture of low head and waist cry and walk slowly into this field to face and solute their uncle with half kneeling posture. After that they also cry and walk slowly to face, feed the cattle the rice head, and solute the cattle with half kneeling posture. After the priest finishes reciting the song of ancestor worship, the family members can begin to cut the cattle. They cut the cattle only where is the neck of the cattle, but they cannot cut the neck off. When the neck is scarred, the cattle will be stumbled with the cord. Then they cut the neck artery with a short knife to take blood. The beef not only offers the people attending this funeral a meal, but also offers the uncle to take back and share the members of the same Oil Pot organization. After the

sacrifice cattle funeral, the body of the dead can be interred in the second day. “The Sacrifice Cattle Funeral” is one of the very important social events in the White-trousers Yao society.

The sacrifice cattle funeral not only is the sacred religious rite in White-trousers Yao social life, but also is the special demonstration of the early life memory. It shows the homesickness and the rooting searching of the White-trousers Yao as well as the worship, with souls returning the clan, of ancestor and the respect of the uncle’s rights. The power between human and super nature, the interpersonal emotion, the collective memory of the ancestor and the nationality will be evoked. It not only changes the role status of the people attending this funeral, but also adjusts the member relationship by one another’s interaction, that it will push the White-trousers Yao collective memory to return as well as to enhance the nationality identity.

文化涵化与音乐认同

——老挝优勉瑶婚俗音乐文化研究

赵书峰

内容提要：老挝优勉瑶由于受到老龙族（“大传统”）和泰国文化的双重影响，致使其婚俗仪式音乐的原生性特征正在消失，取而代之的是集现代性、流行性、娱乐性为主的仪式狂欢；与中国过山瑶婚俗音乐相比，老挝优勉瑶婚俗音乐的结构相对单一，音乐变迁现象较为严重，这种现象不但是优勉瑶为了迎合老挝国家“大传统”主流文化的主观认同，而选择的一种生活策略，同时也是老挝政治、社会、历史等多重语境互动下的自我身份的文化表达；优勉瑶婚俗传统在不同的历史时空维度中，在跨文化的互动交融语境中，为了瑶族传统音乐的“在地化”，需要进行文化重建与再造，只有这样才能更好地展开文化与社会融入。所以，当下的老挝瑶族的“传统”婚礼其实就是采借、吸收老龙族婚俗文化基础上的一种“发明”的产物。

关键词：跨界族群；老挝；优勉瑶；婚俗音乐；老龙族；文化涵化；音乐变迁

作者信息：赵书峰 博士、湖南师范大学音乐学院教授，湖南瑶族文化研究中心副主任

Cultural culturalization and music identity

-- Cultural research on marriage customs music of Iu-Mien

Zhao Shu feng

Abstract: under the dual influence of old dragon nationality (" large tradition ") and Thai culture, the original characteristics of music wedding ceremony in lu-mien, Laos are disappearing. Instead, it is a ceremony carnival focusing on modernity, popularity and entertainment. Compared with music of the "Guoshan yao" in China, Laos optimal lu-mien has the structure of the music is relatively single, music change phenomenon is relatively serious, the phenomenon is not only optimal furnace working in order to cater to the Lao national "great tradition" subjective identity of the mainstream culture, and the choice of a life strategy, but also Lao political, social and historical context under the interaction of multiple culture expression of our identity; In the context of cross-cultural interaction and integration, in order to "localize" the traditional music of lu-mien nationality, cultural reconstruction and reconstruction are needed. Only in this way can cultural and social integration be better carried out. Therefore, the "traditional" wedding of Lao yao nationality in Laos is actually a product of "invention" based on the marriage custom culture of old dragon nationality.

Key words: cross-border ethnic group; Laos; lu-mien ;Optimal furnace working; Marriage customs; The old dragon nationality; Cultural culturalization; Music changes

Author information: Dr. Zhao shufeng, professor of music college of hunan normal university, deputy director of hunan yao culture research center

美国北加州瑶人婚礼的考察与思考

(提要)

中国 中南民族大学 何红一

婚礼是婚俗最显著的标志。笔者在旧金山瑶人社区莎克拉门托市调研期间，有幸参加了一对美国瑶人的婚礼，之后又对这次婚礼和相关习俗作了补充调研。以下是本人的考察与思考。

一、婚礼的基本程序与流程

- (1) 迎宾入席，互赠礼品
- (2) 长辈亮相，瑶领致辞
- (3) 歌乐凑兴，东西合璧
- (4) 傧相伴嫁，分享甜蜜
- (5) 娱乐讨“喜”，游戏天地
- (6) 把盏话别，乘兴而归

二、对几个关键问题的追问

1. “合婚”

“合婚”习俗仍是美国瑶人缔结儿女亲家的重要依据，但如果“合婚”不尽如人意，则可采用“转家先”仪式来变通。

2. 婚服与“高架帽”

婚服是婚仪期间新人所穿的礼服。在美国瑶人婚礼中，婚服表现为中西参半，传统婚服与西装婚纱杂糅。其中新娘的头衣“高架帽”，是新娘身份的形象化标签。“高架帽”源于盘王与三公主成婚礼仪中的高冠，其制作工序繁复，高耸醒目，是身份认同及身份识别标志。包含着多种文化意向及功能。

3. 婚礼消费

在婚礼消费上，美国瑶人与传统瑶人婚礼消费有较大的差异，表现出与时俱进的改良与调整。

三、强势文化重围下的坚守与调适

美国瑶人婚礼既有恪守祖训，保持传统婚俗文化根基的一面；又有立足传统，改良嬗变，因地制宜，适应时代和环境的一面，是文化交流与融合碰撞的结果。导致婚礼呈现多元态势的原因有三：

1. 瑶族固有传统文化因子的作用
2. “过山瑶”迁徙文化使然
3. 居住国强势文化的影响

尽管美国瑶人婚礼呈现出中西合璧、多种民俗文化杂糅景象，但其中中国婚俗文化内核并没有发生根本改变。

【关键词】 美国北加州；瑶人婚礼；“合婚”；婚服；婚礼消费、坚守与调适

The Research and Finding on Wedding Ceremony of Iu Mien Yao in Northern California, U. S. (Summary)

He Hongyi, South-Central University for Nationalities, China

Wedding ceremony is the most obvious symbol of marriage. During the author's field research on the Yao communities residing in Sacramento and San Francisco areas, she attended a Yao American couple's wedding ceremony, and conducted supplementary research on relevant customs and traditions. The author's research and finding are stated below.

I. The Basic Structure and Procession of the Wedding Ceremony

1. Guests arrival and gifts exchange
2. Parents entrance and speech from Yao leader
3. Musical entertainment from both East and West
4. Bride and groom share sweet memories
5. Entertainment and games for the happiness
6. Farewell

II. Inquiring after Several Key Terms

1. "He hun"

The "he hun" tradition is still an important basis of American Yao people's marriage. However, if the result of "he hun" is unsatisfactory, it can be fixed through the "zhuan jia xian" ritual.

2. Wedding costumes and "high hat"

The wedding costumes are worn by the bride and groom during the wedding ceremony. At an American Yao wedding, the wedding costumes are shown in mixed Chinese and Western styles. For example, the bride's headdress "high hat" (also known as bo jong) is a visual symbol of the bride's identity. The "high hat" originated from the high crown wore at the wedding ceremony of King Pan and the 3rd Princess. The making of the "high hat" is complex; the design is outstanding as a sign of identity, containing a variety of cultural meanings and functions.

3. Wedding expense

There is large difference on wedding expense between American Yao and traditional Yao people, showing improvement and adaptation with the times.

III. The Persistence and Adaptation under Impact from Mainstream Culture

On one hand, the American Yao wedding ceremony inherits ancestral practices to maintain the foundation and custom of traditional wedding. On the other hand, there are improvement and transformation based on traditions, adapting to local conditions, times and environment, which are the results of cultural exchanges and integration. There are three reasons for wedding ceremonies become multicultural:

1. Traditional Yao cultural factors
2. The migration culture of "Mountain-Crossing Yao"
3. The influence of mainstream culture of country of residence

Although the American Yao wedding ceremony presents a mixture of Chinese and Western cultures and a variety of folk customs, the core of Chinese wedding traditions has no fundamental changes.

Keywords: Northern California of USA, Yao people wedding, "he hun", wedding dress, wedding expense, persistence and adaptation

生命礼仪中的酒及其文化表征 ——基于广西公母山瑶族度戒仪式的考察

广西民族大学民族学与社会学学院 陈锦均

发言提要：瑶族，是一个具有悠久历史文化的跨境民族，主要分布在中国、越南、老挝、泰国、美国、法国以及加拿大等国家。据全国第 6 次人口普查统计，截止 2010 年我国共有瑶族 2796003 人，主要分布在广西、湖南、广东、云南、贵州、浙江、海南、福建等省区。在我国，瑶族属于南方的山地民族，按语言划分大致可分为盘瑶、布努瑶、茶山瑶以及平地瑶四大支系，大部分散居于海拔 1000 米左右的高山林区，部分居住在生态环境比较恶劣的大石山区，剩下的少部分与其他民族杂居在山坡边缘的丘陵或河谷地带。本研究以广西宁明县爱店镇堪爱村瑶族为研究对象，对当地的度戒仪式进行长时间的跟踪调查，最后将研究视角聚焦于度戒仪式中的酒，试图探析这一祭祀品背后隐含的文化意蕴。

公母山位于宁明县与越南交界处，为中越的界山。因北坡有两个巨大的山体并列，高耸于群峰之上，像天然山体的配偶，故人们称之为“公母山”。公母山山体庞大，地势高峻，坡度较大，平均海拔在 1000 米以上，最高峰海拔 1357.6 米。在公母山半山腰，驻扎着仗鸡、琴么两个瑶族村寨，共 53 户 211 人，属于瑶族中的平地瑶支系。封闭的地理环境与匮乏的自然资源，使公母山瑶族的经济发展明显呈滞后态势，同时也使得当地保存着较为浓厚的宗教氛围。瑶族宗教的表达方式依靠的是仪式，由仪式的实践，与神灵建立关系，以解决生活中的危机与身体疾患或过渡到生命礼仪的重要阶段。仪式的过程往往需要各种祭品来供奉神灵，以求仪式的顺利进行，而酒则是必不可少的贡品之一。对于当地人而言，酒不光是人们日常饮用的佳品之一，同时也是沟通人神、人鬼之间的一种媒介，是情感表达的具体表现形式。通过度戒仪式中的酒这一文化事项来挖掘其背后所隐喻的社会关系（人与人、人与神、人与鬼）、象征意义以及文化意蕴，正是本论文所想要努力呈现的研究初衷。

Wine in the Etiquette of Life and Its Cultural Representation
-Based on the Investigation of the Yao Ceremony of the Gongmu Mountains in
Guangxi

Chen Jinjun, College of Ethnology and Sociology, Guangxi University for Nationalities

Summary: Yao, a cross-border ethnic group with a long history and rich culture, mainly distributed in China, Vietnam, Laos, Thailand, the United States, France and Canada, etc. According to the statistics of the sixth national census of China, by 2010, there were 2,796,003 Yao people in China, mainly distributed in Guangxi, Hunan, Guangdong, Yunnan, Guizhou, Zhejiang, Hainan, Fujian and other provinces. In China, the Yao ethnic group belongs to the southern mountainous ethnic groups. According to the language, it can be roughly divided into four major branches: Panyao, Bunu Yao, Chashan Yao and Pingdi Yao. Most of them are scattered in the alpine forest area with an altitude of about 1000 meters. In the mountain area, where the ecological environment is relatively harsh, the remaining part is mixed with other ethnic groups in the hills or valleys on the edge of the hillside. This study takes the Yao people in Kanai Village, Aidian Town, Ningming County, Guangxi Zhuang Autonomous Region as a research object, and has conducted long-term follow-up investigations on the local ritual ceremony. Finally, the research focus on the wine in the ritual ceremony, trying to analyze the cultural implications behind it.

Gongmu Mountain is located at the junction of Ningming County and Vietnam, and is the boundary mountain between China and Vietnam. Because the north slope has two huge mountains juxtaposed, towering above the peaks, like the spouse of the natural mountain, it is called "Gongmu(which means the male and female) Mountain". The Gongmu mountain is large, with high terrain and steep slopes. The average elevation is above 1000 meters, and the highest peak is 1357.6 meters. In the half-mountain of Gongmu Mountain, there are two Yao villages named Zhangji and Qinme. There are 53 households with 211 people, belonging to the Pingyao branch of the Yao ethnic group. The closed geographical environment and the scarcity of natural resources have made the economic development of the Gongmu Mountain obviously lagging behind, and at the same time have made the local place preserve a relatively strong religious atmosphere. The expression of Yao religion relies on rituals, through the practice of rituals to establish relationships with the gods to solve the crisis and physical illnesses in life or to transition to the important stage of life etiquette. In order to carry out the rituals smoothly, the process of rituals often requires various sacrifices to worship the gods, and wine is one of the essential tributes. For the locals, wine is not only one of the best foods for people to drink, but also a medium for communication between human beings and gods. It is a concrete manifestation of emotional expression. Through the cultural matter of wine in the ritual ceremony, the social relations (people and people, people and gods, people and ghosts), symbolic meanings and cultural implications behind the metaphor are explored. And that's the original intention of the study.

度戒：瑶族男子成年礼的宗教仪式

中国广西民族大学 胡牧君
(论文摘要)

度戒是瑶族男子的成年礼，是瑶族诸多传统习俗中主要的宗教仪式之一。随着社会历史的发展，虽然瑶族度戒也在不断发生变化，各地瑶族的度戒仪式不尽相同，叫法各异，但度戒的内容和形式大体相同，仪式程序大同小异，度戒作为青少年成人礼仪的性质仍未改变。

瑶族度戒可分为度道和度师。度道是文度，度师是武度。一般说来，度道或度师，以家中男孩多少而定。独子者，则既要度道，又要度师，视为文武双全。而家境贫寒或身体虚弱者一般选择度道，瑶族村寨中度道者多于度师者。度戒的年龄各地不相同，但一般在15~17岁时举行。度戒的人数各地也不一样，有的地方一次只能度一个，有的地方则可以十几个人一起举行集体度戒仪式。

度道和度师可以结合进行，如果同时“度道”“度师”，则遵循师左道右的原则。瑶族度戒仪式从准备到结束，主要有以下几个环节：

1. **拜师父** 瑶族男孩到了应当度戒的年龄，决定度道或度师后，便由家人陪同，择吉日携酒、鸡等物去拜师父。
2. **择吉** 拜师以后，由师父选定度戒日子。
3. **布置“圣场”** 瑶族度戒主要有“法坛”和“云台”两个“圣场”。“法坛”是进行度道仪式的场所，一般设在受戒者家的堂屋。“云台”是瑶族度师的重要场所，一般设在家户外合适的地方。
4. **封斋** 封斋是度戒仪式中的一个重要环节，斋禁期间所有人员与师父一起吃素，不得吃荤。
5. **唱诵经书** 度戒法事的大部分过程是度戒师唱诵经书。
6. **“跳云台”** 是“度师”的重要环节。受戒者在师公引导下爬上云台，经师公念经请神，受戒者发誓后，两手十指交叉紧扣抱膝，从云台上倒翻跳下。其目的是让弟子经受严峻的考验。
7. **受戒** “受戒”仪式以道公和师公向受戒者传授“十戒”“十问”“十答”“十度”为主要内容。受戒者一旦受戒，则表示至死遵守戒律。
8. **取法名** 度戒仪式全部结束之后，道公和师公需分别为受戒者传授法印和取法名。

瑶族度戒不仅具有成年礼的文化意义，而且具有宗教的文化意义，是瑶族成年礼仪的一种宗教仪式。

度戒是瑶族对青少年教育的一个重要环节。受戒者通过参加度戒，祭祀神灵，学习并盟誓遵守瑶族的传统美德与行为规范，从而为瑶族地区的社会稳定与和谐奠定了社会道德基础。

通过参加度戒仪式，受戒者在精神上得到了质的升华，增强了克服困难的勇气和信心、增强了社会责任感，强化了民族认同和民族意识。

胡牧君，中国广西民族大学图书馆研究员，研究方向：瑶族教育及瑶族文化。
手机：13481080611，邮箱：humujun6112@163.com

Dujie: Religious Ceremony of Manhood Ritual of Yao Nationality

Hu Mujun, Guangxi University for Nationalities, China

Abstract

Dujie is a man's adult ceremony and one of the main religious rites in many traditional customs of Yao nationality. With the development of social history, although Dujie is changing constantly, its ceremony and name vary from place to place, the content and form of it are basically the same, the ritual procedures are similar to each other, and the nature of Dujie as a juvenile adult etiquette remains unchanged.

The ceremony of Dujie can be divided into two different kinds, one is called Dudao, and the other is called Dushi. Dudao represents civilization spirit and Dushi represents martial spirit. Generally speaking, whether to choose Dudao or Dushi depends on the number of boys in the family. For example, if a family has only one son, the son needs both Dudao and Dushi, demonstrating the expectation of the character of both civil and martial arts for the son, and if the family is poor or the son is weak, Dudao is generally the suitable choice. In the villages of Yao, the families choosing Dudao are more than the ones choosing Dushi, and the ages of men accepting Dujie rite are different in different places. However, they usually accept Dujie rite between the ages of 15 and 17, and the number of people accepting Dujie rite varies from place to place. In some places, only one person at a time can attend the ceremony, while in other places, more than a dozen people can hold the ceremony together.

The ceremonies of Dudaο and Dushi can be combined. If this two kinds of ceremonies are performed simultaneously, the "Du shi Left and Dudaο Right" principle should be followed. From preparation to completion of the Dujie ceremony of Yao nationality, there are mainly the following links:

1. Worshipping master. When the boys of Yao reach the age of accepting Dujie rite, they are apprenticed to a master accompanied by their families and take wine, chicken or other gifts in the chosen day. This has been done after deciding the ritual of Dudaο or Dushi.

2. Choosing the date. After being apprenticed to the master, the Master select the audacious day to hold the Dujie rites.

3. Arrange the “holy place”. There are mainly two “holy places” of the Dujie ceremony of Yao people, one is called “Fatan” and the other is called “Yuntai”. “Fatan” is the place where the ceremonies of Dudaο are performed, which is usually situated in the central room of the disciples and “Yuntai” is an important place of the master of Dujie of Yao people, which is usually located in a suitable place outside the master’s house.

4. Fast. Fast is an important ring of Dujie ceremony. During fasting period, all people and master can only eat vegetarian food, not meat.

5. Chanting classics. Most of the process of the Dujie ritual is that the Master is chanting classics.

6. Jumping out of the “Yuntai”: This a critical link of “Dushi”. Under the guidance of the master, the disciple climb to the high platform called “Yuntai” and then jump down from it crossing hands and fingers and clasping knees tightly after he swears and his master recites the classics and invites God. This aims is to give a severe test to the disciple.

7. Accepting Precepts: The main content of the ceremony of accepting

precepts consists of “Ten Prohibitions”, “Ten Questions” , “ Ten Answers” and “Shidu”. Once the disciple accepts the precepts, he will obey them until the end of the life.

8. Granting the holy name: After the end of the Dujie ceremony, the wizard and master need to grant the holy seal and the holy name for the disciples respectively.

Dujie of Yao nationality not only has the cultural significance of adult rite, but also has the cultural significance of religion. It is a religious ceremony of adult rite of Yao people.

Dujie is an important link in Yaos youth education. By participating in Dujie, sacrificing gods, learning and vowing to abide by the traditional virtues and behavioral norms of Yao nationality, the disciples lay a social moral foundation for social stability and harmony in the Yao’s Area.

Through participating in the Dujie ceremony, the disciples have been sublimated qualitatively in spirit, strengthened the courage and confidence to overcome difficulties, improved the sense of social responsibility, and enhanced the national identity and consciousness.

Hu Mujun, researcher in the library of Guangxi University for Nationalities, China; Research direction: Education and Culture of Yao Nationality.

cell-phone :13481080611; e-mail address:humujun6112@163.com

「招兵」儀礼に見られる陰兵を招く方法について
—中国湖南省藍山縣の過山ヤオ族を中心に—

浅野春二

過山ヤオ族の「招兵」は、離散した「五穀兵」と「家先兵」とを招く儀礼である。「五穀兵」は、その家の穀物の収穫に影響を与える靈的存在であり、「五穀兵」が減るとその家の穀物の収穫が減ってしまうと考えられている。「家先兵」は、その家の先祖たちが持っている「陰兵」であり、先祖とともにその家を守る存在である。これが減ってしまうとその家に災厄がもたらされると考えられている。時とともに遊離して減ってしまった「五穀兵」と「家先兵」とを招くのが、「招兵」である。

「招兵」の儀礼では、まず法師によって「橋」が架けられ、「陰兵」が派遣される。「五穀兵」を招く際には、「陰兵」が「五穀兵」を探して見つけ出し、「元宵（魑）」という神がそれを運んでくる。このときの目印として「五穀幡」が立てられる。帰ってきた「五穀兵」は、法師の持つ「五穀糧」に集められて、家の中に運び込まれる。「家先兵」を招く際には、「兵旗」によって導く方法が用いられる。派遣された「陰兵」は、離散していた「家先兵」と一緒に帰ってくるが、法師は「家先壇」の前で帰ってきた兵たちの様子を演じ、最後に「家先壇」に「剣」を蹴り入れて「家先兵」の帰還を表現する。

こうした「招兵」に見られる儀礼的要素については、さまざまな角度から考察できる。たとえば、「五穀幡」については、民俗学でいうところの予祝との関係が認められる。また兵を招くこと自体については、病気治しに用いられる招魂儀礼との類似が認められる。道教・法教および民間信仰との比較を視野に入れて考察し、「兵」を招く方法を明らかにしていきたい。

关于“招兵”仪式中招揽阴兵的方法
——以中国湖南省蓝山县的过山瑶族为例——

浅野春二

过山瑶族的“招兵”仪式是招揽已离去的“五谷兵”和“家先兵”的仪式。“五谷兵”被认为是影响谷物收获量的灵魂，如果某个家庭的“五谷兵”减少了，这家的谷物收获量也会减少。“家先兵”是家里的祖先拥有的“阴兵”，与祖先一起保佑该家庭。如果“家先兵”减少了，该家庭会发生灾祸。“招兵”仪式的目的就是，招揽随时离去的“五谷兵”和“家先兵”，实现五谷丰登和家庭平安。

“招兵”仪式中，首先由法师架“桥”，派遣“阴兵”。招揽“五谷兵”时，以“阴兵”寻找到“五谷兵”后，由叫“元宵（魑）”的神灵搬运它。这时候，立“五谷幡”作为标志。“五谷兵”回来后，被集中在法师持有的“五谷粮”，搬运到家里。而招揽“家先兵”时使用“兵旗”。被派遣的“阴兵”与已离去的“家先兵”一起回来时，法师在“家先坛”前表演刚回来的兵的样子，最后把“剑”踢入“家先坛”里面，表示“家先兵”回来了。

对于“招兵”仪式的意义可以从几个角度加以思考。比如“五谷幡”与民俗学里的“预祝（celebration in advance）”有关系。同时，招揽士兵的行为与以治病为目的的招魂仪式有类似点。笔者在此稿中，将“招兵”与道教、法教和民间宗教进行比较，从而阐明招揽“士兵”的方法。

中国湖南省藍山県ヤオ族の上光儀礼に対する儀礼文献学からの考察
筑波大学 丸山宏

本報告は、中国湖南省藍山県のヤオ族が行う多くの宗教儀礼の中で、特に上光儀礼と呼ばれる儀礼を対象に、儀礼文献学の立場から考察を加え、ヤオ族の宗教文化の理解を深めることを試みたい。ミエン系ヤオ族には、規模の整った儀礼として、還元盆願、還召兵願、還歌堂願という三種の還願儀礼のほかに、資格授与の度戒儀礼、および死者のための道場儀礼がある。これらの儀礼のいずれにおいても、請神に引き続いて、複雑な上光儀礼が行われる。異なった目的の儀礼であっても、この上光儀礼は、いずれにも組み込まれているという意味で基盤的重要性が想定できる。また儀礼の目的の違いに合わせて、上光儀礼の中に様々な個別の目的を待った項目が配置される柔軟性も注目できる。以上の点に注意し、実際の儀礼の観察の成果と法師からの口述による説明の助けを借りながら、儀礼文献である『意者書』、『開壇書』、『請聖書』、『上光書』などの内容を読み解き、上光儀礼の意義を検討する。

中國湖南省藍山縣瑤族社會至今仍將具有民族特色的多種宗教儀式很完整地保留下來。本報告注目的是其中的一個儀式，就是所謂的上光儀式。將它做為研究對象，從儀式文獻學的立場來加以初步考察，試圖較為深入地理解瑤族宗教的特徵與其意義。瑤族所舉行的各類不同目的儀式，比如感謝神明的還願儀式(元盆願, 召兵願, 歌堂願)，賦予宗教資格的度戒儀式，救濟死者的道場儀式等，均是請聖之後要接著做上光儀式。此事可能表示它的某種重要性。它對不同目的儀式提供一個共同的框架。另外，在不同儀式當中，它隨著不同目的而改變其中所配置之小項目。此或許表示其適應性。本報告在解讀意者書，開壇書，請聖書，上光書等文獻之時，同時注意參照和吸納田野調查成果以及法師口述的珍貴說明，與各類儀式文獻等的文章歌詞結合起來，探討上光儀式的意義。

從國內、海外視野看越南瑤族漢喃書籍

阮蘇蘭博士

越南社會科學翰林院，漢喃研究院研究員

瑤族是越南的少數民族，主要居住在越南- 中國、越南- 老撾邊境以及北部中部和部分沿海地區。瑤族是越南同時使用漢字和自創的喃字等兩種文字的四個民族之一（京族、岱族、諺族）。因此，該民族的書籍包含了漢字及喃字。這些書籍一方面在民族社區中傳播，以滿足實行宗教活動，記錄生活習俗等的需求；另一方面，這些書籍由不同的途徑傳播到世界各地。本論文基於筆者的實地調查數據，結合越南收集、分類、保存瑤族書籍的計劃和世界各地圖書館（如牛津大學、俄亥俄州立大學等等）的書籍信息，初步理清越南瑤族漢、喃字資料的現狀。

關鍵字：瑤族 書籍 漢喃

English abstract

An Overview of Vietnamese Yao Sino-Nom Books in Vietnam and in the World

Nguyen To Lan

Researcher, the Institute of Sino-Nom Studies at Vietnam Academy of Social Sciences

The Yao, a minority of Vietnam, mainly residing in Vietnam-China, Vietnam-Laos border, and Northern midland and coastal provinces is one of the four ethnic groups (Kinh/Viet, Tay, and Ngan) use both Han script and their own created Nom script. Therefore, the Yao's books consist two major parts including Han and Nom's. One the one hand, the books are circulated within the ethnic communities to meet the demand of religious beliefs and life circle practices; on the other hand, they are spread to different

places of the world by different channels. Based on the author's field survey data and archival research on domestic as well as international Yao's collections such as provincial libraries in Vietnam, Oxford University, Ohio State University, etc), this article preliminarily clarify the current overview of Sino-Nom documents of the Yao people in Vietnam.

Keywords: the Yao, books, Sino-Nom

Tóm tắt tiếng Việt

Thư tịch Hán–Nôm của dân tộc Dao Việt Nam: một góc nhìn từ quốc nội và hải ngoại

TS. Nguyễn Tô Lan

Nghiên cứu viên, Viện Hàn lâm Khoa học Xã hội Việt Nam, Viện Nghiên cứu Hán Nôm

Dao là một dân tộc thiểu số ở Việt Nam, cư trú chủ yếu ở vùng biên giới Việt-Trung, Việt-Lào và một số tỉnh trung du và ven biển Bắc Bộ. Đây là một trong số 4 dân tộc ở Việt Nam có đặc điểm đồng thời với việc sử dụng chữ Hán đã tạo nên chữ Nôm của dân tộc mình (Kinh, Tày, và Ngạn). Do đó, thư tịch của dân tộc này bao gồm hai bộ phận thư tịch chữ Hán và thư tịch chữ Nôm. Những thư tịch này một mặt được lưu truyền trong cộng đồng dân tộc đáp ứng nhu cầu về thực hành tôn giáo tín ngưỡng, tập tục sinh hoạt v.v..., mặt khác bằng nhiều con đường khác nhau đã lưu lạc tới nhiều nơi trên thế giới. Bài viết này dựa trên cơ sở tư liệu điền dã của tác giả kết hợp với kết quả của nhiều chương trình sưu tầm, phân loại, bảo tồn thư tịch người Dao khác trong phạm vi Việt Nam và những thông tin từ các tàng thư trên thế giới như Đại học Ohio, Đại học Oxford v.v... có mục đích bước đầu đem lại một hình dung cơ bản về hiện trạng của thư tịch Hán-Nôm của người Dao ở Việt Nam.

Từ khoá: Dao, thư tịch, Hán – Nôm

越南瑤族煉度研究初探—以文獻考察為中心

郭正宜

台灣高苑科技大學資訊傳播系

副教授

摘要

產生於宋元時期的道教儀式文獻中，各種大型的齋醮儀式文本是不可忽視的研究對象。已有學者指出，宋元時期民間最常實行的度亡儀式即是佛教的水陸齋及道教的黃籙齋。煉度是當時道教黃籙齋中新添入的儀節，其文本廣泛見於宋元時期的大型黃籙齋儀文本中，一些法派的煉度儀也被收入於集宋元法術大成的《道法會元》中，如神霄金火天丁大法、清微法等等。煉度文獻流行的程度，不僅可以從其在科儀文本中所佔的比例來看，同時還可以從不同身分的編撰者窺得一、二。除了有正式授籙的道門弟子編撰文本之外，尚有如鄭思尚(1241-1318)等儒士參與編輯煉度儀文本。而至明代，煉度更是宗派多門，非可以千百數之，如靈寶大煉之法、神霄六陽九陽煉法、南昌煉度、青玄煉度、九天煉度等，這些宗派符咒作用各各不同，但都自稱其法為葛玄的派。

筆者收集越南瑤族道經中，提及煉度，有《土府筵生秘語》之〈又論召師下堂煉度法〉、《大齋秘語》之〈煉度秘語〉、《先論人初來請火燒香法》之〈一論煉新亡法〉及《僧士須亡天儀》之〈一論煉度堂蜜語〉等文本。本文謹從這些越南瑤族道經中之煉度儀文本，與道教煉度儀文本，進行比較，發現越南瑤族道經中的煉度，對於道教的煉度有所承襲，同時也結合本民族的原始信仰與女性生殖崇拜，進而有所創發，進行改造。因此，越南瑤族的煉度，已經有所不同於道教煉度之原始風貌了。

Study on the Refinement of Yao in Vietnam: Focus on the literature review

Kuo Cheng-I

Associate Professor

Dept. of Information Communication, Kao Yuan University

Abstract

Among the Daoism ritual documents created during the Song and Yuan dynasties, there are many considerable fasting ritual texts which are the very important research targets. Some scholars have already pointed that the popular death ceremony in folk were the Buddhism Sunilu(水陸) rites and the Daoism Huanlu(黃籙)ceremony during the Song and Yuan dynasties. The refinement rites were the new added parts of Daoism Huanlu ceremony as well as the rites texts also could be generally found in that large ceremony texts during that times. The refinement rites texts, as Shen Xiao Jin Huo Tian Ding Da Fa(神霄金火天丁大法), Qing Wei Fa(清微法) and so on, of other Taoist schools were collected in Da Fa Hui Yuan(《道法會元》), the collection of magic art during the Song and Yuan time. The prevalence of the refinement documents could be present not only the proportion of the rites texts but also the various identity of authors who compile those texts. Besides the formal Taoists compiled the ritual texts, some Confucian, as Zheng Si Xiao(鄭思肖, 1241-1318), also engaged to edit the refinement ritual texts. To the Ming Dynasty, there were very many refinement rites, as Ling Bao Da Lian Zhi Fa(靈寶大煉之法), Shen Xiao Liu Yang Jiu Yang Lian Fa(神霄六陽九陽煉法), Nan Chang Lian Du(南昌煉度), Qing Xuan Lian Du(青玄煉度), Jiu Tian Lian Du(九天煉度). Although those refinement rites were very different, but they were claimed to be inherited from Ge Xuan(葛玄, 164-244).

According the Yao Daoism manuscripts about the refinement rites, which I have collected, there are You Lun Zhao Shi Xia Tang Lian Du Fa(又論召師下堂煉度法)in Tu Fu Yan Sheng Mi Yu(《土府筮生秘語》), Lian Du Mi Yu(煉度秘語)in Da Zhai Mi Yu(《大齋秘語》), Yi Lun Lian Du Xin Wang Fa(一論煉度新亡法) in Xian Lun Ren Chu Lai Qing Huo Shao Xiang Fa(《先論人初來請火燒香法》), Yi Lun Lian Du Tang Mi Yu(一論煉度堂蜜語) in Seng Shi Xu Wang Tian Yi(《僧士須亡天儀》), and so on. The aim of this paper compares the texts of those refinement rites with the ones of Daoism cannon. We could figure out some discoveries. First of all, those texts carry on some influence from the refinement rites in Daoism cannon. Secondly, they also combine with some original folk beliefs of Yao in Vietnam and the female reproductive worship to create their own refinement rites. Finally, we could say that the refinement rites of Yao in Vietnam are different from the traditional ones.

《越南瑤族民間古籍・韓朋古》之故事特色與價值

鄭美惠*

【摘要】

越南瑤族民間歌謠數量豐富，向來頗受研究學者的注意。然而，研究的重點多半著眼在儀式歌曲或生活詩歌上。事實上，在越南河內國家民族文化出版社所出版的《越南瑤族民間古籍》裡，收錄有不少的民間口傳故事歌謠。其中，〈韓朋古〉與中國傳統小說〈韓憑夫婦〉、敦煌變文〈韓朋賦〉實為同一類型的異文。

〈韓憑夫婦〉蒐錄在晉朝干寶所編的《搜神記》中，依據小說內容的描述，〈韓憑夫婦〉故事原是一首歌謠，在干寶記錄這則故事的當時，傳說〈韓憑夫婦〉的歌謠仍在傳唱。然而，干寶僅僅只記錄下故事的內容敘述(text)，至於原來歌謠的形式究竟如何，已不得而知。至於敦煌變文中的〈韓朋賦〉，形式上則為賦體，不僅如此，故事情節也較〈韓憑夫婦〉更為複雜。

而越南瑤族口傳故事歌謠〈韓朋古〉也還保留有歌謠的樣貌，正好能與〈韓憑夫妻〉、〈韓朋賦〉做對照比較。〈韓朋古〉與〈韓朋賦〉、〈韓憑夫婦〉在表現形式上雖然不同，但就內容主題上而言大體相似。但是，前兩者增加的情節卻不少。其中，越南瑤族的故事歌謠〈韓朋古〉還附合了另一個常見的故事情節—「妻至墳前悼念已葬的丈夫，墳塚突然打開，妻入墳中與丈夫合葬」。而此故事情節最為有名的代表，就是流傳在中國相當耳熟能詳的民間故事—「梁祝」。不僅如此，由〈韓朋古〉種種敘述特色，可見其富涵民間文學之特質。

關鍵詞：越南瑤族、民間口傳、故事歌謠、韓朋

* 國立臺中科技大學通識教育中心助理教授，臺灣。

The Characteristics and Value about *Han Peng Gu* of the Yao in Vietnam

Cheng Mei-Hui*

【Summary】

The folk songs of the Yao in Vietnam are so numerous that they always draw scholars' attention. And the ritual songs and songs of life are the most often studied objects. In fact, there are a lot of narrative poetries in the Yao's tribes in Vietnam. We can find such materials in “*The Ancient Book of the Yao in Vietnam*” (*Sách Cổ Người Dao*, 《越南瑶族民間古籍》). In this book, there is a narrative poetry called ‘*Han Peng Gu*’ (韓朋古). This work and ‘*Han Ping and His Wife*’ (韓憑夫婦)、‘*Han Peng Fu*’ (韓朋賦) are different versions of the same type of story.

‘*Han Ping and His Wife*’ is a traditional short story of China and recorded in “*Sou Shen Ji*” (《搜神記》). Its author is Gan Bao (干寶) who was an editor of the Jin Dynasty (晉朝). According to his description, ‘*Han Ping and His Wife*’ was originally a ballad. However, Gan Bao only recorded the content of this story. So we can't see the form of the original ballad now. As for the work named ‘*Han Peng Fu*’, it is a kind of Fu (賦) which was found in the Dun Huang Cave (敦煌石洞) of the Tang Dynasty (唐代). Its plot is more complex than ‘*Han Ping and His Wife*’.

And ‘*Han Peng Gu*’ is spread in the Yao of Lao Cai, Vietnam. It still exists in the form of narrative poetry. On the purport of the story, it is similar to ‘*Han Ping and His Wife*’ and ‘*Han Peng Fu*’, but more motifs are added to ‘*Han Peng Gu*’. For example, the plot of ‘*Liang Zhu*’ (梁祝) attached to it. Not only that, but the characteristics of folk literature can be seen from the narrative features of this work.

Keyword : the Yao in Vietnam, folk oral transmission, narrative poetry, Han Peng

* Assistant Professor, National Taichung University of Science and Technology, Taiwan

2019 インターナショナルウィーク

インドシナデイズ IN 湘南ひらつかキャンパス

—少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承—

発表要旨

【论文提要】

图像与阴兵：基于广西恭城瑶族自治县勉瑶仪式神画开光仪式的考察

广西民族大学 谭静

近年来关于瑶族仪式神画的研究已经累积了不少成果，除了以文化人类学、艺术人类学为基础，对神画的内容、功能、审美意识、艺术风格等方面进行阐释分析的研究之外，学者们也逐渐开始关注神画在仪式实践中如何被使用，以及神画的所有权及使用权等方面的问题。但对于神画开光仪式的相关研究仍然较少，现有的研究也仅限于对开光仪式内容的简单描述，认为“通过开光仪式，神画获得了应有的身份，主家也获得了新的社会身份。神画和神画持有者通过身份的转化，维持了有序的社会互动，完成了自我身份的重构”（黄建福，2015）。神画作为绘画形式的仪式法器，具有不同于一般民间绘画的意义。它标志着瑶族祭司（师公）可以做何种级别的仪式，体现了师公的具体能力、可操控的法术、拥有阴兵的数量，同时也是瑶族师公宗教地位、身份的重要标志（谭静，2019）。作为勉瑶仪式神画从绘制到使用的重要衔接环节，开光仪式是使神画从普通物品转化为仪式法器必须执行的重要宗教程序。因此笔者认为神画开光仪式不单纯是完成神画“身份转化”的程序，必定还有更深层次的含义值得进一步探讨。

本文通过对广西恭城勉瑶仪式神画开光仪式的田野调查，主要从仪式实践、仪式文献两个角度，对仪式内容和仪式中使用的《开光表》等文书的内容进行细致的分析。在理清神画开光仪式基本程序和内容的基础之上，重点阐释举行开光仪式的根本目的，分析隐藏在仪式背后的神画与神画所有者、使用者（师公）之间的内在关联，以及进一步探讨神画蕴含的宗教含义。

【論文概要】

図像と陰兵：広西恭城瑶族自治县ミエン儀礼神画の開光儀礼による考察

広西民族大学 譚静

ここ数年、瑶族儀礼神画に関する研究は多くの成果を積み重なっている。文化人類学・芸術人類学に基づき、神画の内容・機能・審美意識・芸術スタイルなどに関する研究の他に、学者たちも、儀式の実践において神画がどのように使用されるのか、神画の所有権や使用权などに注目するようになってきた。しかし、神画開光儀礼に関する研究はまだ少なく、既存の研究は開光儀礼の内容について簡単に記述することに限られている。一般的には「開光儀礼によって神画があるべき身分が得られ、主家も新たな社会的アイデンティティを得た。神画と神画の所有者はアイデンティティの転換により、秩序がある社会的な相互作用を維持し、自己の身分の再構築を完成しました」とみなされている（黄建福, 2015）。神画は絵画的な儀礼法具として、一般の民間絵画と違って異なる意味を持っている。それはヤオ族の祭司（師公）がどの程度の儀式を実施することができるのかを表し、師公の能力、操れる法術、持つ陰兵の数量を表し、同時に師公の宗教的な地位と身分を表す重要な証しでもある（譚静、2019）。ミエン儀礼神画を製作することから使用になるための重要なつながりとして、開光儀礼は儀礼神画を通常の商品から儀礼の法具に変換させるために必ず行われる重要な宗教プロセスである。そのため、神画の開光儀礼は単に神画の“身分転換”を完成させる程序ではなく、必ずさらに深い意味を持ち、さらに探求する価値があると考えられる。

本文では広西恭城ミエン儀礼神画開光儀礼のフィールド調査により、主に儀礼実践と儀礼文献の二つの角度から分析して行こうと考える。まず、儀礼内容と儀礼で用いられる「開光表」などの文書の内容を細かく分析したい。開光儀礼の程序と内容を明確した上で、重点的に儀礼を行う目的を解明し、儀式の裏に隠された神画と神画所有者・使用者（師公）の内在関係を分析し、さらに神画が現れる宗教的な意味を考察したいと考える。

ヤオ族の儀礼における身体技法を考える～中国湖南省の長鼓舞を中心に～

小塩さとみ（宮城教育大学）

儀礼に拘わる身体技法は多岐にわたるが、ヤオ族の儀礼においては、司祭が行う数多くの儀礼的な所作に加えて、より舞踊的な要素の強い複雑な身体技法を伴うパフォーマンスも重要な役割を担っている。この発表では、中国湖南省藍山県のヤオ族儀礼の中で行われる長鼓舞を主として取り上げて、その身体技法とパフォーマンスの構造について考察する。

長鼓は、細長い胴の両端に皮を張った両面太鼓で、長鼓舞はこの太鼓を上下左右に動かして舞う舞である。舞は72種あると言われ、「量身（身の丈を計る）」「穿鞋（靴を履く）」「伐木（木を切る）」など、具体的な生活動作やヤオ族の伝説世界での出来事を示す舞の名前が付けられている。発表者は実際の儀礼の中で長鼓舞が行われるのを見る機会はまだ得ていないが、2017年8月に横浜ユーラシア文化館において、中国湖南省在住のヤオ族の祭司である趙金付氏が実演した「長鼓の舞」のデモンストレーションを対象に、動作分析を行った。本発表では、この分析の結果を中心に報告する。

Regarding physical techniques in the rituals of the Yao people: Focusing on the “Dance with Long Drum” transmitted in Hunan Province of China.

OSHIO Satomi (Miyagi University of Education)

Rituals generally involve various types of physical techniques. In the rituals of the Yao people, in addition to a number of ceremonial movements made by the main priests, there are also more complicated, dance-like physical movements by the priests and ritual participants. This presentation examines “the dance with long drum,” performed at Yao rituals in Hunan Province of China, and analyzes its basic physical movements and performance structure.

Yao’s long drum (*changgu* in Han Chinese, *gong* in the Mien-Yao language) is double-headed with an elongated body. Each dancer manipulates the instrument, moving it from side to side and up and down, and rotating it in various ways. It is said that there are 72 dance movements involving the long drum, and each dance movement describes physical movements from the daily life or legends of the Yao people; those actions became the names of their associated dance movements, e.g., “Measuring body height,” “Wearing shoes,” or “Cutting the tree.” Based on a demonstration performance by Yao priest 趙金付 (Zhao Jinfu) in August 2017 in Yokohama, Japan, I will investigate the basic physical movements and structure of the drum dance.

歌謡に見える飄遙過海神話

廣田律子

筆者は中国湖南省藍山県のミエン・ヤオ族におけるフィールド調査を行い、儀礼と歌謡について研究を進めている。還家願儀礼（ミエン語の漢語読みではジャビャオニョオン）の儀礼項目の中で、盤王への謝恩儀礼である「盤王願」（ビエンフンニョオン）では民族の起源や歴史の記された歌書『大歌書』（トンズンスー、通称『盤王大歌』）が男性祭司によって読誦詠唱され、歌堂儀礼（ゾウダーン）とも称される。ここでは歌謡が重要とされるが、中でも韻文の経文が問答形式で歌われる等、祭祀歌謡の特性が見られる¹。

儀礼項目の「盤王願」の小項目「流楽」段階で祭司により読誦される「点男点女過山根」に見える渡海神話にもあるように、かつてミエン・ヤオ族が海を渡り遭難した際、三廟聖王に救いを求め願を掛け、無事に上陸できたので、約束を果たす祭祀を行うようになった。神々との契約関係は現在に至っても引き継がれ、救世主盤王に象徴される祖先神は、子孫の祈願の対象であり続け、大願成就の願ほどきの祭祀が続けられてきたのである²。「盤王願」儀礼は、祖先への歌を奉納する祭祀である。神話叙事及び歴史叙事である『大歌書』（いわゆる『盤王大歌』）を男性が詠唱し、盤王への願ほどきの内容『慶盤王歌書』を女性が詠唱することで自民族の起源や出自にかかわる伝承を再確認し、祖先を讃え、綿々と継続されてきた祭祀契約とその履行の実践である祭祀が行われる。男性の歌と女性の歌が別々の歌書を用いて詠唱することが重要と考えられる。

「盤王願」祭祀においては、祭壇の供物にまで民族の渡海神話が表現され、豚の頭の上に載せられた肉片は、大時化の際船の舳先で無事を祈るのに使ったハンカチを表すとされる。さらにしっぽは船の櫂、腸は接岸のロープ、肝臓は船の碇、脂肪は帆布を表すとされる。豚の上に積み重ねられた笹に包まれたちまきは帆を表す葉でくるまれているとされ、その上に挿された旗は救世主盤王の好きな 36 種の花を表すとされる。神話と歴史が歌われる儀礼空間には神話世界が表現され、自民族のアイデンティティを五感で認識する場となる。

ベトナム・タイのミエン・ヤオ族が実施する度戒や歌堂儀礼の儀礼の目的や次第を説明する「上情意者」儀礼で渡海神話が読誦詠唱される。中国と共通する盤王天地創造、寅卯二年の日照り、飄遙（遊）過海、遭難と許願、三廟聖王の保護、無事に対する謝恩、歌堂良願儀礼の実施の内容が見える。渡海神話はミエン・ヤオ族が儀礼を行う根拠となる伝承であり、まさに民族のアイデンティティを象徴する重要な民族知識といえる。

¹ 廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」廣田律子編『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016年 pp.1-53 で論じた。

² 廣田律子「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第 121 号 日本道教会 2013年 pp.1-23 頁

歌谣中体现的飘洋过海的神话

广田律子

至今为止笔者就中国湖南省蓝山县勉瑶的仪礼及歌谣进行了实地调查与研究。在还家愿仪礼的仪式项目中表示对盘王谢恩仪礼的《盘王愿》里，有记载了民族起源及历史的被称为《大歌书》的歌本（通称《盘王大歌》，是由男性祭司诵读咏唱的歌堂仪礼）。至此，歌谣固然重要，值得注目的是其中以问答形式咏唱的押韵的经文，它体现了祭祀歌谣的特性³。

在仪礼项目《盘王愿》的小项目《流乐》中，由祭司诵读的《点男点女过山根》这一内容里，有关于渡海神话的描写。勉瑶曾经在渡海遇难之际，求救于三庙圣王并许愿，如果平安登陆将履行诺言举行还愿祭祀。这种与诸神的契约关系传承至今，象征着祖先神的救世主盘王一直是勉瑶子孙们的祈祷对象，而且成就大愿的还愿祭祀也被延绵持续下来⁴。《盘王愿》仪礼是对祖先奉献歌曲的祭祀。记述了神话叙事及历史叙事的《大歌书》（也称《盘王大歌》）由男性咏唱，表示对盘王还愿的内容《庆盘王歌书》由女性咏唱，以此不仅进行了对本民族的起源及传承的反复确认，也颂扬了祖先，履行了延绵持续下来的契约还愿祭祀。男性与女性歌曲分别使用不同唱本来咏唱也尤为重要。

在《盘王愿》的祭祀里，连祭坛上的供奉物品也体现了勉瑶的渡海神话。猪头上蒙着的肉片，表示了大时化之际在船头祈求平安时使用的手帕。猪尾巴表示船桨，猪肠子表示上岸时的缆绳，猪肝表示船锚，猪脂肪表示船帆。猪的躯干上面层层叠叠地摆满了由竹叶包着的粽子，竹叶表示船帆。粽子的上面插着表示救世主盘王喜欢的 36 种花的小纸旗。在诵唱神话与历史的仪礼仪式的空间，也充分再现了神话世界，在此通过感官进行本民族认同感的再确认。

在越南和泰国，勉瑶举行的度戒及对歌堂仪礼的目的和顺序进行说明的《上情意者》仪礼中，诵读咏唱了渡海神话。其中与中国相同的有盘王创天造地、寅卯二年的炎炎烈日、飘遥（游）过海、遭难及许愿、三庙圣王的保护、对平安无事的谢恩、歌堂良愿仪礼的实施内容等。渡海神话不仅是勉瑶举行仪礼的传承依据，也是象征了民族认同的一种重要的民族知识。

³ 廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」
廣田律子編『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016年 pp.1-53 で論じた。

⁴ 廣田律子「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第121号 日本道教学会 2013年 pp.1-23 頁

国際シンポジウム「儀礼と神話」&インドシナデイズ IN 湘南ひらつか
かキャンパス—少数民族ミエン・ヤオの文化と伝承— 発表要旨集

発行日 2019年11月16日

発行 神奈川大学 一般社団法人ヤオ族文化研究所

※本書内容について文書による許可なく、無断転載・複製することを禁じます。

